

Title	ヒッグス氏著 英国財務制度
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.2 (1915. 2) ,p.218(112)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150201-0112

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

批評と紹介

ロックス氏著『英國財務制度』

Henry Higgs the Financial System of the United Kingdom pp. X. + 218. London: Macmillan 6s. net.

ヘンリー・ロックス氏の學名は先年公刊せられたる小著重農學派論に依て、世人の記憶する所なり。氏は其後郵務省の官吏と爲り、近年大蔵省の吏務に執掌し、學問上の事業と關係せざるに至れるが、今回『英國財務制度』を著しし財務研究者に有用なる參考書を供へたり。本書は其分量より云へば本文百頁に過ぎざる小冊文なりと雖も、其實質に於ては、貴重なるものあり。由來英國の財務制度に關する規定たる、千八百六十六年の國庫并に會計検査部法に統一せられたるもの多しと雖も、此以外に律令あり、命令あり、慣例ありて、現行制度の細目に通曉するは、英國人にして尙ほ困難なるの嘆なき能はず、況や外國人に於てをや。然も從來英國の經濟學者又は財政學者にして、此點に於て綜合的述作を試みたる者なく、纔にトッドの英國議院政治、アンソンの英國憲法等に

依て、斷片的知識を收むるに止まれるのみ。ロックス氏は本書を分ちて前後九章とし、豫算の編成并に提出、固定基金并に國庫、議院に於ける經費要求書、豫算并に財政法案、歳入見積書、會計検査支拂命令官、決算、大蔵省、國債事業公債并に特別會計等に就て、序を逐うて説明し、附録として、重要法令并に雛形を添付すること十四項の多きに及べり。書物の性質上事實の説明に重きを置き、制度の得失に涉れるものなしと雖も、一冊を通讀せんが、紛糾錯綜を極むる英國財務制度は忽にして明瞭と爲り、其一斑に通ずるを得ると共に、英國の財政が堅實なる所以の、制度の善良なるに基くもの少なからざることを知るを得べし。並に本書に於て紹介したるマレット氏の英國財政二十五年史と併せ稱す可き有益の著作なることは吾輩の敢て保證せんとする所なり。(堀江蹄一)

阿部秀助著『獨逸對列強の抗爭』

大正三年十一月 富山房發行
四六版一二八頁定價金貳拾錢

富山房『時事叢書』の第十篇である。第一章「新獨逸の意義」にては專ら獨逸のマイト イズ ライト主義の由來を説き、第二章「新獨逸の外交」に於て獨逸の外交が英の夫れに比し露骨にして理屈詰めな流れ、爲めに世界の同情を失ふ所以を叙し、第三章「獨逸現内閣の二元的傾向」にては獨逸聯邦の區々たる

次第からカイセルを中心とする官僚的武斷派と議會を中心とする政黨とが殖民政策や軍備擴張に就て抗爭する状態を述べ、第四章「新獨逸の敵」は獨逸と英吉利の海軍競争を論じ、尙第五六の二章に於て「露國財政の復活」及び「歐洲の大戦役と獨逸の態度」に説き及ぼして居る。固より二二八頁の小冊子ではあるけれど、時局を了解する上に取て切要なる知識に充實して居る點は流石に交戦國殊に獨逸の國情に對する蘊蓄の深い人の手に成つたものと頷かれる。文章は流暢なる口語體で、十餘の挿畫さへあれば何人にも難解の恐れはあま

30 (占部)

レキニス著『國民經濟學汎論』改訂第三版
W. Lexis, Allgemeine Volkswirtschaftslehre. Zweite verbesserte Auflage.

本書が「トインナー」發刊の現代人文叢書の一部として世に現はれてより未だ久しからざるに既に第二版を重ねるに至りしは、主として其叙述の透徹せる點にあり、即ち著者は從來、經濟學者間に幾多争論の中心となりし國民經濟學研究法を本書の結論に於て極めて簡潔に然かも明快に論評せり、例者、演繹的に經濟法則を求めんとする純理的、抽象的研究法と經濟現象を吾人の思索其者に依らずして寧ろ實際的條件によりて究明せんとする現實的方法との差を論じて、結ぶに現時の資

本的生産と最も發達せる貨幣經濟の基礎に築かれたる經濟現象を充分完全に理解することは一般の經濟的社會的影響の真相を正當に批判するに最も必要なる根本的條件たることを以てせり、又た同じく結論中に包括せられし國民經濟の發展に關する説明の如きも僅々十五頁を以て能く現時に於ける國民經濟其物を明かにせる著者の手腕に敬服せざるを得ず、次に本論に比し見る可き處は現時の經濟組織に於て欠ぐ可からざる手段たる貨幣、信用銀行に對する著者の説明となす、更に人口論に對する彼れの説明も亦た吾人の科學的良心を満足せしむるものあり、蓋、食料品及有用礦物の生産能力は制限せられ、殊に鐵、石炭等に至りては一度消費せしものは之れを補充すること能はず、即ち専門家の調査によれば世界に於ける鐵其者の命脈は今より僅かに六十二年間に於て、石炭の如きも百五十年乃至二百年を出でざる可しと云ふ、然るに人口の増加は一面に於て之れが需要の増加たるを以て、按に吾人々類の運命に關する經濟的大問題を惹起さざるを得ざるなり、斯くの如きは將來の經濟學が採りて以て研究す可き好個の問題たり。(阿部生)

占部百太郎譯『英國の憲法政治』
△菊判布製四八四頁△代價壹圓五十錢
△慶應義塾出版局發行

凡そ五大陸上國を建て稱を争ふもの尠からずと雖も、自由